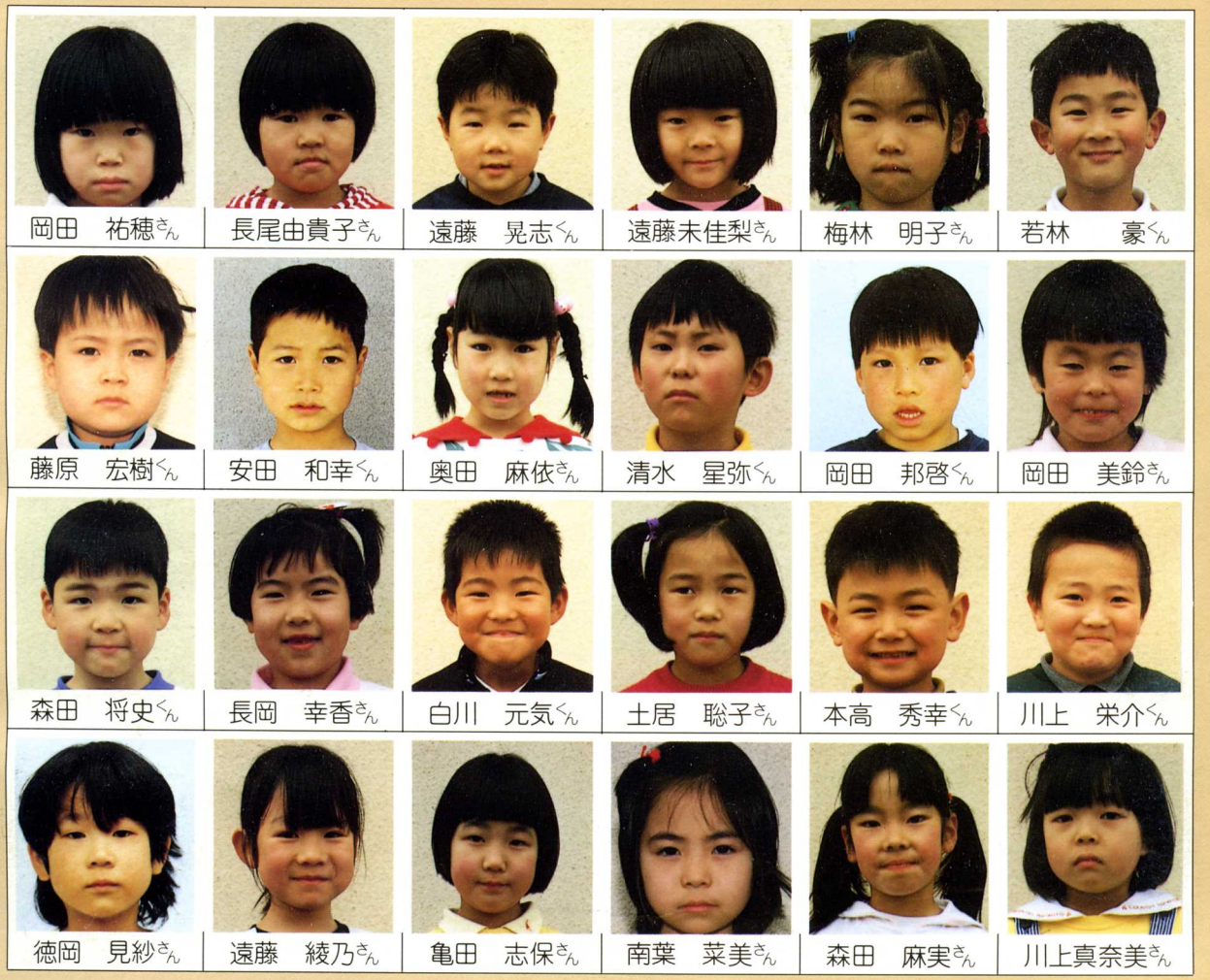
町報 こうふ

No.254

1992 4/5月

発行：江府町役場　〒689-44　鳥取県日野郡江府町大字江尾475　☎0859（75）2211　FAX0859（75）2389　編集：総務課　印刷：冨士印刷



岡田　祐穂さん	長尾由貴子さん	遠藤　晃志くん	遠藤未佳梨さん	梅林　明子さん	若林　豪くん
藤原　宏樹くん	安田　和幸くん	奥田　麻依さん	清水　星弥くん	岡田　邦啓くん	岡田　美鈴さん
森田　将史くん	長岡　幸香さん	白川　元気くん	土居　聡子さん	本高　秀幸くん	川上　栄介くん
徳岡　見紗さん	遠藤　綾乃さん	亀田　志保さん	南葉　菜美さん	森田　麻実さん	川上真奈美さん

希望を胸に
54人の新入生

（紙面を広げて裏表紙とあわせてご覧下さい。）

まちのうごき

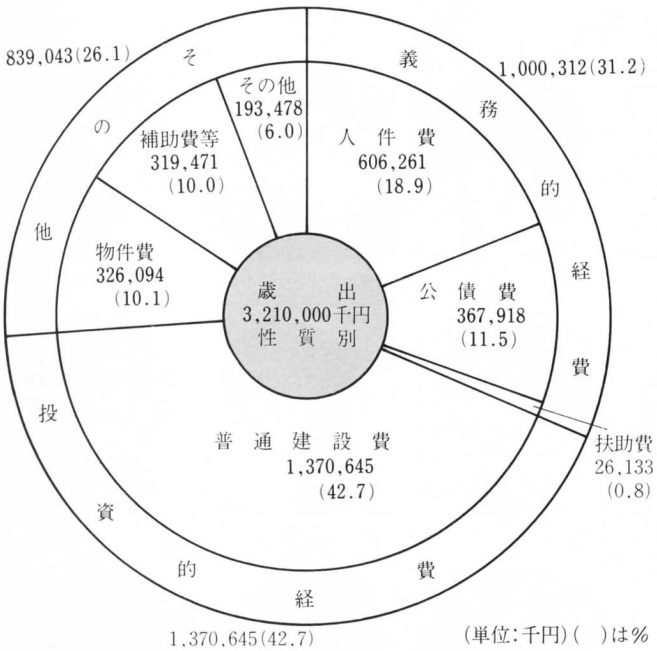
（平成4年3月末）

		前月比
世帯数	1,205	（－6）
人　口	4,589人	（－31）
（男）	2,215人	（－16）
（女）	2,374人	（－15）

平成4年度一般会計予算
32億1,000万円
昨年に比べ 21.3パーセント増の積極予算

◇平成四年度の町づくりの指針となる一般◇
◇会計予算、十二特別会計予算及び二事業◇
◇会計予算が、三月町議会定例会で原案ど◇
◇おり可決されました。◇
◇一般会計予算は、平成三年度に比べ五億◇
◇四、六〇〇万円（前年対比二一・三パーセント）◇
◇増の積極予算となっています。◇
◇以下、三月議会で町長の説明した「平成◇
◇四年度江府町歳入歳出予算案並びに行財◇
◇政方針」についてまとめたものです。◇

平成四年度予算案を本議会に提出するに当り、その概要と提案理由並びに所信の一端を申し上げ、本議会を通じまして、町民皆様の深いご理解とご協力をお願いいたす次第であります。



さて、本年度の本町予算の編成に当りましては、最近における地域社会も大きく変ぼうし、益々生活態様も広域化、多様化、高度化して参りました。さらに二一世紀を間近にひかえ、社会情勢は、高齢化、情報化、国際化といった地域課題も深刻化し、今後、これらの動きは一層進展するものと存じます。

平成四年度国の予算も生活大国にむけて昨年一二月二八日閣議決定されたところでありますが、国民のニーズも、わが国の経済的豊かさにふさわしい生活の豊かさの実現が求められているなかで、農村、特に中山間地の農山村をとりまく情勢は益々厳しくなり、今こそ都市との格差是正のためにも生産、生活基盤と快適な環境の整備が急がれる行政課題であります。

この様に激動する農村地域社会の将来にわたり耐え抜くために、財政の弾力的な対応と、後世に多大な負担を残さないよう、健全な財政体質を常に念頭におきながら町行財政計画を進めて参りたいと存じます。

先ず、歳入につきましては、引き続き俣野川発電所に係る固定資産税が年々大幅な減額となり、加えて過疎債の経過措置適用も減少するなかで、本年は、行財政需要のピークを迎え、一段と財源確保が緊急な課題でありますが、本年も受益者(住民)負担の軽減を図りながら国、県の助成事業、更に最も有利な辺地債等も掘り起し、これが不足額につきましては一部基金を取りくずし充当いたしました。

歳出につきましては、義務的経費、農業農村活性化のための継続大型整備事業はもちろん、新規国、県費の補助事業のご理解とご配慮により採択見通しのもとに計上いたしております。

本年も引き続き財政の簡素効率化と経費の節減合理化を推進し、限られた財源の重点的な配分に徹し、時代の要請に即応した行政の役割を見直すとともに、長期的展望に立ち、各種施策についても優先順位の厳しい選択も行いました。

特に本年は、江府町発足四〇周年の節目を迎えております。心気新たにし、町民の健康福祉の充実を柱として希望と活力に満ちた魅力あるふるさと江府町を念願し、地方自治の原則であります住民本位の公正で誠実、開かれた心の通い合う町政の基本姿勢を深く心に刻み、町民の皆さんと共々一層の努力をいた

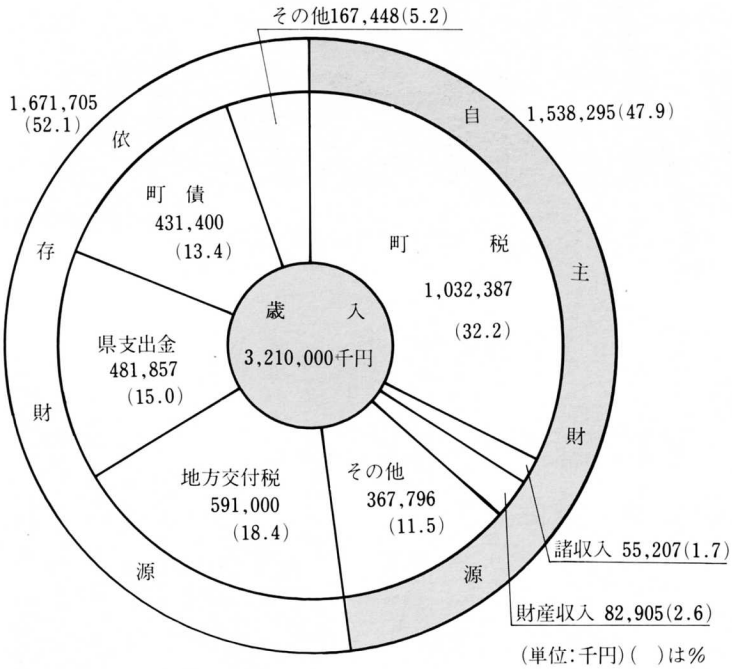
す決意であります。

以上、平成四年度一般会計歳入歳出予算として総額三二億一千万円、前年対比二一・三%増、住民福祉増進のための積極予算を編成いたしました。

何卒、本議会を通じまして町民皆さんの深いご理解とご協力を重ねてお願いする次第であります。

歳入について

（カッコ内は対前年比）



一、町税　一〇億三、二八六万七千円
（九五・八%）

内訳

町民税　一億二三万三千円
固定資産税　九億七七万九千円
（内中電償却）六億二、九一〇万九千円
軽自動車税　七三五万二千円
たばこ税　一、六〇〇万円
特別土地保有税　三三万三千円

二、地方譲与税　三、三三五万二千円
（一〇五・七%）

内訳

消費譲与税　一、七三五万二千円
自動車重量譲与税　一、〇〇〇万円
地方道路譲与税　六〇〇万円

三、利子割交付金　一、九一万円
（八八・九%）

四、特別地方消費税　一〇万八千円
（新規）

五、自動車取得税交付金　一、九七六万七千円
（一〇一・八%）

六、国有提供施設等所在市町村助成交付金　五五万九千円
（一〇〇・〇%）

七、地方交付税　五億九、一〇〇万円
（一一五・九%）

八、交通安全対策特別交付金　八〇万円
（一〇〇・〇%）

九、分担金及び負担金　七、二三三万三千円
（二一一・八%）

一〇、使用料及び手数料　八三六万三千円
（一〇二・六%）

一一、国庫支出金　一億一〇五万二千円
（一九一・五%）

一二、県支出金　四億八、一八五万七千円
（一二八・八%）

一三、財産収入　八、二九〇万五千円
（七九・〇%）

一四、寄附金　一〇万円
（一〇〇・〇%）

一五、繰入金　二億五、一六四万三千円
（二一六・三%）

一六、繰越金　三、五三三万七千円
（九八・九%）

一七、諸収入　五、五一〇万七千円
（三九・〇%）

一八、町債　四億三、一四〇万円
（三四六・〇%）

内訳

過疎対策債　六、三一〇万円
辺地対策債　五、七一〇万円
地域改善対策債　二、一一〇万円
地域総合整備債　一億九、〇〇〇万円
義務教育施設整備債　二、〇九〇万円
厚生福祉施設整備債　四、六〇〇万円
公有林野整備債　二、三五〇万円
公営住宅建設債　一、〇六〇万円

歳入合計　三億一、〇〇〇万円
（一二一・三%）

歳出について

（カッコ内は対前年比）

一、議会費　六、四〇三万円
（八八・五%）

二、総務費　四億三、三四万六千円
（九四・七%）

三、民生費　六億六、五五四万円
（二六三・三%）

四、衛生費　一億二、四三万八千円
（八四・八%）

五、労働費　七万八千円
（四六・七%）

六、農林水産業費　八億二、三九五万七千円
（一一九・二%）

七、商工費　六、八五一万円
（一〇三・〇%）

八、土木費　二億一七四万八千円
（九一・二%）

九、消防費　八、六五五万一千円
（一二三・二%）

一〇、教育費　二億九、五〇三万七千円
（一五一・二%）

一一、災害復旧費　二六六万七千円
（二五四・〇%）

一二、公債費　三億六、七九一万八千円
（九六・一%）

一三、諸支出金　五、八九二万五千円
（七六・一%）

一四、予備費　一、九六三万五千円
（一四九・九%）

歳出合計　三億一、〇〇〇万円
（一二一・三%）

議会費

6,402万円

総務費

4億3,234万6千円

内訳

総務管理費　三億六、五六七万八千円
徴税費　四、一八七万一千円
戸籍住民基本台帳費　一、六九〇万三千円
選挙費　六六四万五千円
統計調査費　三四万九千円
監査委員費　九〇万円

一般管理費　二億六四三万二千円

地域の活性化は、先ず行政の活性化であり、この行政を司る職員の資質向上を図り、町民の付託に応えるべく行政の推進により一層の努力して参りたいと存じます。

行政需要の増大・多様化に伴い事務量は著しく増加しており、コンピューター・OA機器の導入などにより文書管理、計算事務等の省力化を図り、事務管理の充実、経費の節減に努めて参ります。

又、非常勤特別職のうち一部その報酬について西部近隣町村と、その均衡性を考慮して引上げ改定をいたしております。

行政改革については、国、地方ともに行財政の厳しい環境の中にあって益々多様化する行政事務の複雑化に対応し、町行政組織の見直し、職員の資質の向上と、一般行政経費の抑制、補助金及び交付金の徹底した整理合理化を図るため、特に本年度は、行政調査会においてご検討いただきたい所存であります。

文書広報費　七五三万三千円

行政の知らせる義務と町民の知る権利の保証に応え、活字ばなれとマンネリ化を反省し町民の側に立った再検討も加え町報、防災行政無線を最大限の活用は勿論正しい情報の伝達に努め、きめこまやかな住民サービスの徹底と開かれた町政を進めて参ります。

情報も地方の時代に向け、情報政策として地域ニーズに応えるため、高齢化社会対策、産業構造の変化への対応、地域文化の振興、総合防災対策の一環として身近な情報システムである有線テレビ事業の在り方については、「江府町CATV事業研究会」に諮問いたしているところでございます。

諸費　三五二万八千円

姉妹町交流事業も小学生児童による臨海学校、スキー、一般成人によるテニスの交流も一四回目を迎えます。

この、小学校時代の交流が機縁となり数年前から青年団男女の自主的な交流も始まり今後に期待をいたしております。

この姉妹町盟友の目的は、親善交流は勿論でありますが、海と山の町として両町の特産物等の経済的交流を中心に両町の活性化に寄与する念願の経済交流協議会も漸く発足し、昨年農協、漁協を中心に産地直売物産展等好評を博しましたが、この組織を通じ実効ある経済交流を念願いたすものであります。

▲西ノ島町との交流（奥大山スキー場）

交通安全対策費　二五七万六千円

昨年溝口警察署管内による五件の死亡事故の内四件が本町内で発生し、死亡事故多発の非常事態宣言という極めて厳しい現実を見たところであります。

本年度は、更に町民一人ひとりが社会的責任を自覚し、地域が一体となって交通事故絶無を目指した安全施設を含め、交通安全運動を広げて参る所存であります。

江尾駅対策費　四四三万円

情報処理費　一、三六五万四千円

県情報センターとのオンライン化による住民情報を始め、年金、選挙、町税及び予算等、財政面において努力して参りましたが、四年度におきまして、土木工事の積算につきましても、コンピューター化し、サービスの向上に鋭意努力いたすものであります。

▲交通安全を呼びかける（柿原入口）

町発足四〇周年記念事業費　八〇〇万円

今年で江府町発足四〇周年の大きな節目を迎えるにあたり、記念式典および記念行事を検討し、先人の偉業を顕彰し全町民あげて町づくりの自覚をたかめ、

二一世紀に向けて躍進の年といたしたく、すでに協議申請いたしておりましたが、NHKの積極的理解と協力により、**六月二八日（日曜日）四〇周年記念ののど自慢公開録画**、更に**八月一九日全国放送ラジオ体操の集い**が内定いたしております。したがって本年度当初予算は、骨格予算として予備費に留保し、新年度早々に記念式典及び記念行事等検討いたしたく存じております。

企　画　費

一、五三三万九千円

本町の今後を担う後継者対策について、本年は組織設立をおこない検討協議を願うとともに、具体的施策として昨年来実施いたしております青年男女の交流活動等、積極的に取り組む考えであります。

また、居住環境の整備及び雇用の場の確保についても、本年は是非とも実現にむけて地元関係者のご協力をいただきながら、積極的な努力をしてまいりたいと存じます。

本年は特に集落団体等で活躍されている町民の研修について、**国内外研修補助制度**を利用し、地域振興のリーダー育成に結びつけて参ります。

▲江府インター周辺のあやめ

総　合　開　発　費

二、四三〇万五千円

地域活性化は与えられるものではなく、身近かな足元からヤル気のある人々の知恵と工夫でつくり出していくものであり、行政主導の保護政策でなく民間活力に大きく期待するところであります。

その自主的活動を少しでもお手伝いする目的で**「江府町地域活性化対策事業補助制度」**を継続させて参ります。

更に地域の資源を生かした特産品開発を通じ地場産業の育成にも力を注いでまいりたいと存じます。

また、鳥取県の全県公園化構想、本町の奥大山チロルの里構想の推進の一つとして、**花と緑のまちづくり事業**も計画いたしております。

過疎バス対策費

一、二四四万円

既存の路線についてダイヤ改正、待合所の建設等利用者の利便を図りながら、運行費の助成も継続して参ります。

水力発電所在交付金事業

四九八万円

電源地域開発事業費

一、一五七万七千円

本事業につきましては、通産省の助成をいただきながら事業を実施しておりますが、本年度は、奥大山チロルの里マスコット等も開発し、観光土産品を作製し、地域のPRを始め産業振興に結びつける事業を考えております。

リゾート開発対策事業費

三〇〇万円

総合保養地域整備法いわゆるリゾート法に基づく鳥取県における特定地域「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」が策定され、昨年一二月国から承認を受けたところであります。

本町内にも企業による開発の構想もあり、関係機関と協議検討をおこなっておりますが、本町の将来の命運をかけた大事業だけに慎重に対応いたしたく、企業進出による雇用の拡大等地域活性化の期待も大きいものがありますが、自然環境等の課題も存在する事実もあろうかと存じますので将来に悔いのないよう進めるためにも、本年は、これが各種調査等を実施したいと存じます。

▲チロル地方への視察（オーストリア）

国際交流事業費

二〇〇万円

国際化が進む今日、本町においても、昨年度より外国人講師招聘（しょうへい）事業を実施しているところであります。

この様な状況の中、本年は、制度を設け町民の海外研修についての支援を検討いたしております。

ふるさと創生事業費

四八〇万円

近年、益々地域の活性化が求められ、地域間の競争の激しい時代になりましたが、地域の活性化は先ず「人づくり」であります。

本年もふるさと創生「ひとづくり事業」推進委員会と協議しながら具体的「ひとづくり対策」を検討実施して参ります。

▲中学生ミニ議会

地域づくり推進事業費

三五〇万円

町の活性化は集落の活性化を図ることと考え、各集落の自主的活動を期待するとともに物心両面に亘り地域づくり支援事業により手助けを行なって行きたいと存じます。

徴税費

四、一八七万一千円

平成六年度の**土地の評価替え**においては、地価公示価格の一定割合を目標に、**評価の均衡化適正化**を図ることとし、標準地に係る鑑定評価を求めるよう計画し、不動産鑑定委託料として二八五万円計上いたしました。

同和対策費

五、六八六万五千円

部落解放基本法制定に向けて、議会議決から国民運動として強く進めて参りましたが地対協の意見具申により不完全とはいいながら「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」が四月から五年間延長され、これまでの五五事業から四五事業に絞り込むほか、一部事業の繰り上げ実施などで地域改善事業の一般事業への移行に進められることとなりました。

しかし、同対審の答申の具現化のため残事業を中心に引続き生活環境の整備、農林業の近代化及び合理化を図るため、基盤整備はもとより諸施設等の整備、雇用の促進と安定、地場産業の育成に努め、地域住民の生活安定に意をそそぎたく存じます。

また、江府町同和教育推進協議会を中心とした各支部組織の強化に努め、同和教育の徹底を図りながら、基本的人権を尊重する心を深め、一日も早い差別の解消に全力を傾注する考えでございます。

なお、崇高な人権憲章ともいうべき念願の部落解放基本法制定にむけては組織を通じ全町民運動として努力を続けて参りたいと存じます。

戸籍住民基本台帳費

一、六九〇万三千円

近年における本町内の年間出生数は、四〇～五〇人であり、平成三年は三九人と過去最低の数値となり、年々減少している状況であります。

女性一人当りの出生数は全国で一・五三人、県は一・八〇人、本町においては、一・八一人でありますが、平成三年四月から一二月までの出生のうち第三子としての出生児が一〇名もあり喜ばしいことであります。本年度も引き続き、これが第三子出生に対し祝金を支給し、更に新規事業として、小学校に第三子が入学する、入学祝金三三万円（一人当り三万円）を計上いたし、少産化、ひいては高齢化に歯止めをかける切実な願いと祈りを全町に広げたく念願いたしております。

民生費

6億6,554万円

（一）社会福祉費

五億七、七三〇万一千円

本町の六〇才以上の高齢者は本年一月末一、五一四人で三二・七%、六五才以上は一、一〇四人で高齢化率は二三・八%、県は一六%、全国平均一一・九%であり、推計による平成三二年の全国平均二三・二%の三〇年先取り超高齢化の本町であります。

ちなみに、民生委員等の調査では、寝たきり老人三一名、独居老人六三名、施設入所者一二名となっております。加えて老人のみの世帯八八世帯一七六名、合せて二八二名の高齢者の方達は今でも町や社会が手をさしのべねばならない潜在的なお年寄りであります。

人生八〇年時代を迎え、更に老人対策は緊急且つ重大な課題であり最優先の公約でもあります。

昨年七月二五日付で、みんなの町のみんなの福祉を考える会（三〇人委員会）に諮問し、一一月一一日に答申を得、その内容は、老人福祉センターのみならず、特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービスセンター等総合的施設を早急に整備の必要があるとされております。

本年度老人福祉センター施設を、国の基準は四九五・五㎡でありますが、二倍の一、〇〇六㎡の規模で建設し、機能訓練室、生活相談室、食堂、浴室、集会室、教養娯楽室等を備え、健常者と身障者のふれあい、機能訓練レクリエーション等、お年寄りの生きがい対策安定した生活の場となる施設といたす所存でございます。

これに伴い、江府町社会福祉協議会の機能強化を図り、運営管理の委託をお願い致したいと存じております。

更に、民間活力と社会福祉法人、日野病院等のご理解と協力を得ながら、特別養護老人ホーム五〇床、ショートステイ一〇床、デイサービスセンター一日一五人（うち寝たきり五人）、介護支援センターを含む総合福祉施設を誘致すべく、国県関係機関等にも協議中であります。

これらの施設を核として、いま芽生えつつあるボランティアの輪を広げ、念願の在宅ケアの

ネットワークづくりにむけて具現化いたしたく存じます。

これらの施設建設場所として久連白住地区(旧中電事務所跡)とし、また、リフト付福祉バスも含め施設利用の利便と効率化をはかりたく、町民の方はもとより町議会におかれましても特にご理解を賜りますようお願いいたす次第であります。

また、昨年一月一六日に町営江尾診療所を開設し一ケ年経過いたしましたが、今後もご理解とご協力を得て町民皆さんの切実な願いであります地域医療の充実も図り、福祉元年の年とし「希望、安心、連帯」を高くかかげ、児童福祉、身障福祉、母子福祉ともども、福祉の町としての本年度重点課題として、名実共に積極的な取り組みをいたす所存であります。

また、引き続き国県の長寿政策を取り入れながら、介護福祉士及びホームヘルパーの充実並びに昨年導入いたしました入浴車及びリフト付自動車を活用し、お年寄りに喜ばれる在宅介護、特に入浴サービス、日常生活用具の給付による「寝かせきり」にさせない在宅福祉の充実も図って参りたいと存じます。

▲リフト付自動車

(二) 児童福祉費

八、八二三万九千円

保育園につきましては、一町一園だけに通園対策、保育時間、送迎等にも配慮しながら本来の児童福祉施設として未満児保育、すなわち一番手のかかる一、二才児保育も三年目となり未満児も年々増加いたしておりますが引き続き実施し、職員の増員と保育料も昨年通りの据置とし、保護者負担の軽減と若年母子対策に意を注ぎたく存じます。

母子福祉につきましても児童の法的扶助、若年母子の援護、卒業生の激励会、進路相談をはじめ、組織を通じ不運な母子家庭の厳しい生活の支援対策に六二五千円計上いたしました。

衛生費

1億2,423万8千円

人生最高の幸は先ず健康であり、健康こそ人間が自己に贈ることのできる最大のプレゼントであります。

したがって、自らの健康は自分自身で守ることが原則でありますが、町民皆さんの保健衛生対策は町政の基本でもあります。

この健康対策として乳幼児から高齢者にわたる保健指導と啓発相談事業(糖尿病教室、スリム教育、健康相談、乳幼児相談、及び乳幼児検診等)の実施、更には平成三年の死亡者六〇名中、六〇%(三六名)は、ガン、心臓病、脳卒中等の三大成人病で亡くなられております。これらの皆様の中には一般検診及びガン検診を受けておられない事実があります。

これが対策として、あらゆる機会と場をとらえ、全住民の健康検診、早期診断、早期治療の徹底をお願い致しておりましたが、十数年にして約一二%の受診率の向上をみました。

本年度も引き続き住民検診料を無料とし、加えて国保事業による人間ドッグ検診事業も実施し、三大成人病中「ガン死亡0(ゼロ)」を目ざし健康長寿の町を念願するとともに、連続県下最高の医療費の低減に期待するものであります。

更に、昨年導入いたしましたリフト付自動車の活用による老人福祉健康対策、将来にむけて建設予定の福祉センターと連携して高齢者、身障者の方々への機能訓練事業、この事業と町社会福祉協議会で実施している給食サービスも軌道にのり、加えて男女共ボランティア登録者の輪も広がり、町としても誠に喜ばしく、感激をいたしておるところであり、弱い立場の方々へのきめ細かな保健衛生対策に意を注ぎたいと存じます。

次に地域医療対策は先にのべた通り全町民の切実な願いであります。国民健康保険江尾診療所の充実を図るべく本年度繰出金二〇〇万円と、これとは別に医療費の高騰に備え、国保(事業勘定)会計に本年度は人件費等も含め繰出金二、五九二万五千円も計上いたしました。

清掃費

六、五八四万二千円

全町民の協力をいただき、し尿とゴミ処理を適正に行い、一世帯当りゴミ収集手数料を年額一、二〇〇円徴収いたしておりますが、一人当りのゴミ処理費は一四、二〇〇円(二年度実績一二、五〇〇円)計上いたしました。

ゴミの認識を新たにしていただき、ゴミを少なくする運動と、リサイクル利用啓発の観点から、本年度空カン回収機(空カン鳥)を導入し、自然環境の保全と、住みよい町づくりを念願いたすものであります。

上水道費

五〇九万円

本町水道普及率は一〇〇%でありますが、その町内一九施設につきましていろいろと経過と歴史があり、現在は、間接管理と各公共事業に係る補償関連布設替工事を町が代行しておるところであります。

施設中、三〇年を経過する老朽施設(宮市・貝田・江尾・美用・宮市原)もあり、使用管材も石綿・鉄管等で改修が急がれるところでありますが、今後の改修に当たっては、水道法に基

く、町管理のもとで農村集落排水計画を含め、平成三年度県協議を得た、本町統合水道基本計画によって、年次計画的に有利な補助、起債適用の認可を受けて順次大規模改修を行うこととなります。

本町最初の改修地区、米沢地区簡水については、平成五年度農林省事業の採択に向けて、関係六部落の協議を進捗中であり、集落排水事業関連の川筋地区簡水の水源改修、又貝田地区簡水の改修計画協議等いたしております。

当面、各施設の整備促進を図り、順次改修いたす方針であります。

今後、これらの施設の維持管理を一層充実強化し安全で、安定した公平な生活用水の供給と地域環境の整備を図って参る所存であります。

労働費

7万8千円

農林水産業費

8億2,259万7千円

本町産業の中心は農林業であります。しかし、厳しい農村をとりまく状況のなか二一世紀に向けて町の存続をかけ、今こそ農業農村活性化構造改善、中山間地総合整備、集落排水、土地改良事業等、国県の有利な補助事業を可能な限り活用し、事業展開最高の年であり、本町最重点施策であります。

したがって、構造改善室を構造改善課として独立、人的条件もさらに整備し、農林課と連帯の上、ほ場整備をはじめ、農道、林道、水路整備及びライスセンター等の生産基盤の整備と集落排水事業、多目的集会施設、農村広場、飲雑用水等生活環境整備事業を継続的に推進しながら明るく住みやすい農村づくりにむけて努力いたしたいと存じます。

(一) 農業費

六億一、五四九万二千円

農業委員会費

一、五五六万二千円

農業総務費

八、五八六万四千円

農業施策の効率的運営を期するため鳥取県山村振興協議会等各種協議会へ参画し適確な情報の収集に努めて参りたく、また、自然との触れ合いを求める気運の高まりに呼応し、その一助として、日野川水系河川への魚類増殖対策にも取り組んで参ります。

農業振興費

二、一七六万一千円

平成三年度においては、遂に本町におきましても青果物販売が米を抜きました。国際貿易の狭間で揺れ動く米の状況を思うとき、まさに画期的なできごとといえると思います。農協をはじめ関係者の方々そして農家の皆様のご努力に敬意を表します。

平成三年度に引き続き「とっとり野菜産地形成事業」を展開し野菜拡大を図ってまいります。

水田農業確立対策につきましては平成三年産の作柄を反映し大幅な緩和策が打ち出されました。転作作物等において、ようやくその定着を見る時期でもありますので、集落においては、米の作付再開に戸惑いのあるところも予測できますので、今年は農家事情を反映させるため、集落間調整による転作目標面積等の配分をすることといたしました。

又、平成三年度に発足をみました（財）鳥取県農業担い手育成基金の活動も本格化して参りますので、農業後継者対策のソフト事業にも庁内連絡調整を取りながら力を注いで参ります。

▲野菜出荷式

畜産振興費

五〇六万五千円

生産コストの低減を図るため放牧事業の支援を継続して参ります。

土地改良費

一、四六七万七千円

昨年設立されました江府町土地改良区の育成強化に引き続き力を注いで参りたいと考えます。

また、江尾・宮市地区県営ほ場整備事業について杉谷等の一部を追加編入するための地形図作成を行ないます。

県営ほ場整備事業費

四、四四六万四千円

江尾・宮市地区

江尾工区　一一・四ヘクタール

宮市工区　五・六ヘクタール

宮市舟谷工区　四・七ヘクタール

下蚊屋地区

瓜菜沢工区　四・二ヘクタール

農村基盤総合整備費

五一九万七千円

▲笠良原市民農園の上棟式

農道整備費

四、七六一万五千円

農林省及び鳥取県の支援を受けながら瓜茱沢農道の改良舗装工事を継続して参ります。

全体工事計画　五、二九〇㍍
施工済　三、三四〇㍍
今年度計画　一、〇〇〇㍍
残工事　九五〇㍍
完了予定年度　平成五年度

かんがい排水事業費

三三一万五千円

山村開発センター管理費

二七五万八千円

地域農政推進対策事業費

二一二万九千円

同和対策費

一、八九五万一千円

ほ場整備工事　坂木北平団地（継続）二・一㌶

自然休養村施設管理費

一、〇六二万五千円

地域総合開発事業費

四六九万三千円

大山山麓総合農地開発事業につきましては、多年関係要路の方々にご心配を煩わせて参りましたが、同意につきまして一名の地権者を残すのみとなりました。ようやくにしてトンネルの出口が見え出した感があります。今後とも農林省ともども格段の努力を傾注して参ります。

農業構造改善事業費

一億六一五万八千円

待望久しいライスセンターの建設に着手いたします。

ライスセンター鉄骨平屋建
一、一三八・四平方㍍　一棟
野菜集出荷施設鉄骨平屋建
四九八・七平方㍍　一棟
構造改善センター木造平屋建
一二六・六平方㍍　一棟

農村地域ふるさと生活圏整備事業費　一億一、九二三万九千円

笠良原市民農園

昨年着工いたしました管理棟の外、辺地債も導入し継続して施設の整備を行ないます。

農園（四十一区画）
二〇、〇〇〇平方㍍
給水施設　一式
コテージ（ログハウス・平屋建）　五〇平方㍍　三棟
交流広場　九〇〇平方㍍

平成五年四月オープンを目途としており、今年度において職員の研修及び利用者の契約促進を図りたいと考えます。

農地費

四一八万円

ほ場整備事業費

七、〇九五万円

俣野地区（尾上原、日ノ詰地区）団体営ほ場整備事業に着手いたします。平成四年度末での本町のほ場整備率はおおよそ五十パーセントとなり、県下最低の二九％から三年目を迎え、念願の県平均進捗率に近づいて参りました。

中山間地域農村活性化総合整備事業費　二、七八一万九千円

溝口町と共同で計画を進めておりますこの事業はすべて県営で実施していただくこととなっております。

ほ場整備　柿原・貝田
三四・〇㌶
集会所　三棟
水路　一、七三〇㍍
農道　二、七〇〇㍍
営農飲雑用水　一ケ所
防火水槽　二基
農村広場　三ケ所

総事業費

七億六、四五〇万円

事業年度　平成四年度から平成八年度まで五ケ年間

このうち本年度はほ場整備一一・三㌶を施工いたします。

なお、この事業に並行する形で本町宮市地区と溝口町大坂地区を結ぶ「南大山地区農免農道」も県営事業で実施するよう要望いたしているところであります。

▲ほ場整備

（二）林業費

二億七一〇万五千円

林業総務費

一、七四四万八千円

鳥取県が毎年開催しております恒例の植樹祭会場の要請を受けておりますので、地元の皆さんのご協力を得ながら下蚊屋地内で開催するよう計画しております。

平成元年度より鳥取県が事業主体で施工しております広域基幹林道宝仏山線も、今年一六二メートルを計画しております。

町行造林費

四、五三一万円

新植　五・〇㌶
雪起こし　五五・三㌶
下刈り　一三一・二㌶
除伐　二四・〇㌶
補植　一一・一㌶
二回刈　六四・七㌶
枝打ち　一七・〇㌶
根踏　三八・二四㌶

公団造林費　一七六万五千円

入会林野整備事業費

六四九万六千円

林道開設事業費

三、三六七万二千円

杉谷・貝田線を継続して施工いたします。

新設工事　三五〇㍍

舗装工事　三四三㍍

間伐強化促進対策事業費

一、二八二万二千円

林業集落定住基盤整備事業費

七、五五八万二千円

平成二年度・平成三年度と実施してまいりましたこの事業実績は

集落林道杉谷線

五一三㍍（完成）

同　消雪装置

五一三㍍（完成）

林道原線

五九〇㍍（完成）

御机水路

八六二㍍（完成）

日ノ詰集落公園

八七四平方㍍（完成）

林道江尾・俣野線

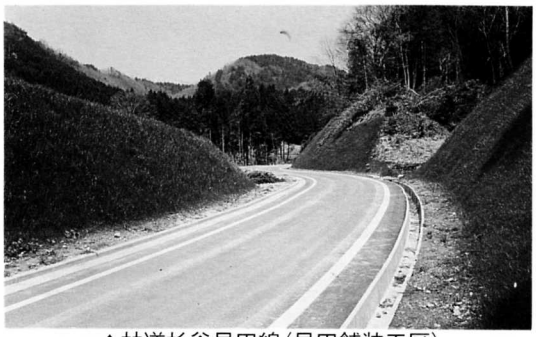
二二〇㍍（継続）

であります。

本年も引き続き平成六年度の完成を目指して林道江尾・俣野線を施工してまいります。

林道江尾・俣野線

一、〇〇〇㍍（計画）



▲林道杉谷貝田線（貝田舗装工区）

治山事業費

二六〇万円

林道改良費

七八一万円

商工費

6,851万円

商工振興費

三、八五三万九千円

商工振興改善普及事業として

四〇二万円

商工団体の育成と、商工業者は勿論消費者の意識変革をはかり、購買意欲の向上と商店街活性化のため街路灯更新等も順次行い、商工青年部をはじめ、各専門部の積極的自主的活動を支援し、商業振興への足掛りになるよう強く希望しております。

中小企業経営振興事業として

三、三六〇万円

従来の小口融資制度の枠の拡大をはかり、中小企業経営の安定と振興をはかると共に、一昨年より実施してまいりました、企業安定化資金、即ち従業員二十人以上を雇用する、中規模事業者を対象とする融資制度を本年も引続き実施し、町内事業者の経営振興の充実と雇用者の安定をはかりたく念願いたしております。

観光費

二、〇七一万二千円

本町の観光行政は、奥大山一体の自然保護を基本としながらも、多様化する観光客のニーズに対応していかなければなりません。このため見る観光から、味わい、体験し、参加して楽しめる滞在型観光をどの様にして受け入れるかという、自然保護と開発の両面に立った、大きな課題があります。

また、平成五年二月中国横断道開通予定をひかえ、その効果を最大限に生かすためにも、魅力ある観光地づくりを目指す必要があります。

これら多くの課題に対応するためにも鏡ヶ成国民休暇村、国民宿舎山荘甘酒茶屋を拠点としたリゾート、レジャー施設の検討とともに、「奥大山周辺整備計画」・「奥大山チロルの里核づくり構想」とタイアップしながら観光開発を早急に進めて参ります。

幸いにも本町はいま世界的に深刻化する貴重な大自然が残されています。奥大山一帯の神秘的な山岳美と原野美の折なす景観、美味しい空気と水、更に冬期間の豊富な雪、これらは、自然が本町に与えてくれる宝であります。

特に、この雪の活用につきましては、冬の一大イベントとして、「奥大山チロルの里全国スキーマラソン大会」も本年で第二回大会を迎え西日本各地から多くの選手参加があり、名実共に定着しつつあります。

本町としては、この大自然のもたらす、水と雪を有効に利用し町の活性化に生かすことを皆様と共に知恵を出し合いながら実施して参りたいと存じます。

▲全国スキーマラソンのスタート（鏡ヶ成）

土木費

2億174万8千円

道路橋梁費

一億六、一八一万七千円

内訳

道路橋梁総務費

四、四七七万一千円

道路維持費

二、五七五万円

道路新設改良費

八、九六七万五千円

交通安全施設整備費

一二二万九千円

中国横断道対策費

三九万二千円

町道俣野宮市線（俣野・宮市両工区）は継続施工をいたしますとともに、他の町道も計画的に改良及び修繕工事を実施して参ります。

懸案の主要地方道「江府中和用瀬線」江尾橋の改築につきましては、平成三年度の事業採択となり、県において設計も終り関係地権者等の協力をいただきながら補償調査等接渉中であります。順調に参りますと新年度着工となり、継続事業で平成五年度完成を期待しておるところであります。これに伴い、国道昇格と江尾地内バイパス構想が急がれると存じます。

中国横断自動車道は、五九年一一月、米子の着工以来八年を経て、平成元年一二月本町佐川インター迄の一部が供用開始されましたが、愈々、江府、落合間の本年度開通にむけて、区間工事全開となります。

なお、本町では新たに美用地内で舗装プラント工場が稼働し区間、佐川インター上から三平トンネル入口迄、五月から一二月の七ケ月に亘って、舗装工事が行われます。

▲国道昇格の江府中和用瀬線

引続き、県営江尾宮市ほ場整備事業、町道俣野宮市線も加わり、大型重機、資材輸送車両の増加が予想され特に「公団」に対しては地域住民の安全対策について重ねて強く要請して参るところであります。

反面、本工事の進ちょくと安全を期すため、地域の協力も願うところであります。

加えて本線自動車道開通に備えて、本町産業の発展並びに住民福利増進を図る上で、町内道路網の整備は不可欠であります。よって「**江府町道路整備審議会設置規程**」を公布し、第一次町道（見直し）認定を諮問し、広く意見を求めて道路整備計画を立て、促進を図って参りたい所存であります。

なお、この機会にご報告いたしたいと存じますが、江府町を起点として日野町、日南町を経て広島に通じる、即ち陰陽連絡の高規格道路建設にむけて県の指導のもとで関係町と相いはかり、来る四月一九日には期成同盟会を計画いたしております。

住宅建設費

三、九七五万九千円

再三議論になりました住宅不足による町外への人口流出の歯止策として、懸案の町営住宅の建築を年次的に進め、住民の要望に応えて参りたく本年度におきまして、四世帯分の建設を計画いたしております。

なお、住宅団地造成につきましても奥大山土地開発公社と前向きに協議検討いたしております。

消防費

8,675万1千円

内訳

非常備消防費

七、〇五六万四千円

消防施設費

一、六一三万二千円

水防費

五万五千円

西部広域消防業務負担金六、三六三万九千円を始め、町内施設の整備と点検防火思想の啓発に努め、地域住民が安心して生活できるようその期待に応えるため一層の消防団員の訓練と意識の高揚をはかり、町民の生命及び財産の保全に万全を期すると共に、施設整備として、防火水槽三ケ所を設置いたしたく計画いたしております。

なお、昨年度来着工の西部広域消防本部建設の二年度目を迎えこれが負担金の増額となっております。

▼出初式

教育費

2億9,502万7千円

教育総務費

五、〇二五万円

小学校費

四、八三二万七千円（児童一人当り一五八、〇〇〇円）

中学校費

一億二〇七万一千円（生徒一人当り六四六、〇〇〇円）

次代を担う児童、生徒の教育は、新しい時代の創造をめざし明るく豊かな人材を養成するうえできわめて大切であります。

教育振興充実につきましては教育委員会において教育諸条件の整備等鋭意努力がなされているところであります。

本年度より文部省の学習指導要領の改訂に伴い、中学校に技術科のコンピューターの学習分野が設けられるため、現在の江府中学校木造校舎の改築及びこれに伴う渡り廊下の改修整備をしてコンピューター教室及び技術室を開設し、情報化社会に対応した教育施設を完備してまいります。

近年教育への関心がますます高まっておりますが、社会態様の変化に伴う学校教育への期待過剰と家庭や社会の教育的機能の喪失により児童生徒の望ましい成長が阻害されている傾向もあります。

このため地域に根ざした学校教育、社会家庭教育の振興・深化を図り、ゆとりと充実の中で生きることの厳しさや他人を思いやる心の育成など知、徳、体の調和のとれた人格の育成に努め、社会人としての基本的態度を養うとともに教育環境の整備、教育内容の充実、地域社会との連携をより図る努力を痛感いたしております。

学校施設については義務教育施設整備計画に基ずき年次計画的に対応いたすよう考えているところであります。

更に益々国際化を迎え、本町の「チロルの里づくり構想」のもと国際交流の視点に立った町づくりと、ふるさと創生「人づくり事業」の一環として、「外国人講師招聘事業」により英語指導助手を江府中学校に継続配置し学校教育のみでなく特に本年は、社会教育各団体、集落、地域社会との交流事業等を通じ国際感覚のある町民育成の輪を広げたいと存じております。

▲俣野小学校での交流学習

社会教育費

五、一一七万五千円（町民一人当り　一〇、八〇〇円）

社会教育総務費　一、三二九万一千円
公民館費　二、一八〇万九千円
文化財保護費　一九九万五千円
民俗資料館費　一一五万五千円
埋蔵文化財費　一四万三千円
同和教育費　四八一万一千円
同和教育集会所費　五〇四万三千円

社会教育は生涯学習の理念に立って住民の自主的な教育活動が進められる条件を整備し、その学習の場を設定することが大切でありますが、その拠点であり教育的機能をもつ施設としての独立中央公民館、図書館が本町は未設置でありましたが、平成元年一二月に図書館設置条例を認定いただき、図書館の整備充実によりこれが読書活動の中核としながら、移動図書館の実績もふまえ、国、県の助成をうけ電算端末機の導入により生涯学習施設ネットワーク事業の一層の推進をはかるため図書館司書の人的条件も整備いたした次第であります。

更に婦人団体から強い要望のありました近代的な調理実習室も新改装し、折角の町施設の山村開発センター、老人創作館、日輪閣の有機的な連携により土井の内全施設を社会教育ゾーンとして名実共に本町生涯教育の拠点に位置づけ教育委員会が管理運営と窓口の一体化により、社会教育団体及び町民利用の簡素化、利便をはかり幼児から高齢者に亘る学習の場、住民の茶の間としても気安く活用していただくため一段と社会教育、生涯教育の機会の充実が図られることが大切ではないかと要望するものであります。

明徳学園費

二九二万八千円

明徳学園につきましては、その理念であります、だれもが到達する老境を一層健康で充実した生活をおくるため組織的、継続的に高齢者自身が積極的に学習に取り組み、能力の再開発と社会参加の喜びを見出し、老後の希望の灯をともす本町最高学府として名実共に充実した学園となりますよう努力するものであります。

なお、引き続き、社会福祉と教育の二本立ての計上予算を教育費に統合し事務の簡素化をはかりながらも、建学の精神であります福祉と教育併合の学園の目的は堅持して参る所存であります。

▼明徳学園

保健体育費

四、三二〇万四千円

社会体育につきましては、町民の意識は年々高まり、健康増進快適な生活文化の向上のためにも、その内容も「見るスポーツ」から「するスポーツ」に変りつつあります。スポーツの町江府町は、自他共に認める永い

歴史があります。江府町発足四〇周年記念行事と合わせて社会体育、スポーツ行事を検討するとともに身近かな集落スポーツ広場も年次計画的に整備し、気軽に参加できる日常的なスポーツ活動の底辺拡大にむけてこれが必要な施設の充実、クラブ同好会、体協等の組織活動の奨励援助、指導者の養成等前むきな条件整備が肝要かと存じます。

学校給食費

一、五三二万二千円

学校給食でありますが、本町は県下に先がけ昭和四十九年より米飯給食に取り組み、現在週三日の米飯給食を実施しておりますが、現下のコメ事情からしてコメの純消費拡大と子供時代からコメになじませるためにも、引き続き本年もコシヒカリを学校給食にとり入れ、その政府米との差額を町と県、農協で負担し、これが父兄負担の軽減と更に米飯給食回数増の方途も前むきで検討いたしたいと存じております。

特別会計

特別会計予算

国民健康保険（事業勘定）	（歳入、歳出）	3億269万8千円
国民健康保険（施設勘定）	（歳入、歳出）	2,839万8千円
老人保健	（歳入、歳出）	4億6,661万5千円
簡易水道事業	（歳入、歳出）	6,768万8千円
農業集落排水事業	（歳入、歳出）	3億3,830万5千円
笠良原市民農園		800万円
老人居室整備資金貸付事業	（歳入、歳出）	67万5千円
障害者住宅整備資金貸付事業	（歳入、歳出）	39万1千円
住宅新築資金等貸付事業	（歳入、歳出）	819万2千円
江尾財産区	（歳入、歳出）	350万円
神奈川財産区	（歳入、歳出）	284万6千円
米沢財産区	（歳入、歳出）	453万4千円

事業会計

奥大山国民宿舎山荘甘酒茶屋	収入	1億7,453万7千円
運営事業	支出	1億7,168万1千円
索道事業	収入	6,634万1千円
	支出	5,401万6千円

国民健康保険（事業勘定）

3億269万8千円

一、見込世帯数　六二三世帯

二、見込被保険者数

一、五一〇人（うち老人四〇〇人）

三、医療総額

五億一、四六六万一千円

内訳

一般医療費（退職者含む）

二億六、五一五万七千円

老人医療費

二億四、九五〇万四千円

（内老人保健拠出金

五、九六五万一千円）

○被保険者一世帯当り医療費

八二六、一〇〇円

○被保険者一人当り医療費

三四〇、八〇〇円

○老人一人当り医療費

六二三、七六〇円

四、保険税総額

一億二七九万五千円

○一世帯当り保険税

一六五、〇〇〇円

（据置）

○被保険者一人当り保険税

六八、〇七六円

五、国庫支出金等

○療養給付費負担金（一般）

五、五八九万一千円

○療養給付費負担金（老人）

三、四四一万七千円

○普通調整交付金

三、二一八万一千円

○療養給付費交付金（退職者）

三、五四一万二千円

○事務費等負担金

八五万九千円

六、利子及び配当金（財産収入国保基金利子）

四二一万七千円

七、一般会計繰入金

二、五九二万五千円

内訳

○基盤安定制度分

九〇〇万円

○税軽減対策分（据置対策）

九五〇万円

○人件費分（職員人件費）

七四二万五千円

八、繰越金

一、〇〇〇万円

本町においては依然として一人当りの医療費は伸び続けており、特に老人医療費一人当り六二三、七六〇円は一般の約二倍の医療費であります。

この要因は老人医療費のうち、入院医療費が五三・三％（二年度）になっており、おのずと老人医療費を押し上げ、平成二年度一人当りの医療費三〇万三千円、老人一人当り六〇万四千円、一世帯当り七四万二千円と県下第一位の高い医療費となり、準高医療費負担町村として、鳥取県より六三年度から指定され、指導監査を受けているところであります。

新年度医療費総額は、三ケ年の実績を踏えて見込計上したもので、医療費国庫負担金等収支いたしましたところ、保険税相当額一世帯当り、一七万二千円となりますので、これに対し、平成四年度一世帯当り一六万五千円（昭和六一年度より六ケ年連続）に据置き、一般会計から人件費及び助産費助成、減税対策等二、五九二万五千円繰入れることといたしました。

しかし、減税とはいえ、国保税は普通税に比べ高額であり納期八期に分納いただきますものの、高い実感はよく承知いたしておるところでありますが、反面県下一の高医療費町であることと、年々医療費の高騰によることも事実であり、この点につきましてもご理解とご協力をいただきたいと思う次第であります。

なに人も、いつ誰が難病、高額、長期の医療に見舞われるか計り知れない人生において、保険制度の相互援助もご理解いただき、町も国保会計の運営に努力しているところでありますが、平成三年の死亡者のうち、三大成人病（ガン・心臓・高血圧）の死亡率は実に六八％で、六〇年の七六％と比較いたしますと年々低下しておりますが、これが対策として、保険指導と、住民健診の徹底により、早期発見、早期治療を図る所存であります。

本年も引続き、働手の中心である四〇、五〇代の人間ドック健診事業（一部負担金二割）として、日帰り三〇名、を実施し更に一般会計では全町民対策として、すべての健診負担金を無料とし住民健診の徹底を図り健康で明るい町づくりを念願いたしております。

なお、本年度から助産費二四万円（現行一三万円）、葬祭費を二万円（現行一万円）に引上げ助成いたすことといたしました。

現在基金積立金八、〇五九万二千円（一世帯当り一二万九、三〇〇円）の益金につきましては、歳入に四二一万一千円計上いたし急激な医療費変動に備え、保険財政の一層の安定性を得ましたが、今後も基金を活用し、健全で安定した本町国保運営に努めて参る所存であります。

国民健康保険（施設勘定）2,839万8千円

一、歳入について

○診療報酬　二、〇八八万五千円
○使用料及び手数料　四八万円
○一般会計繰入金　二〇〇万円
○繰越金　五〇〇万円
○諸収入　三万三千円

二、歳出について

○総務費　一、五八八万一千円
○医療費　一、〇一九万円
○諸支払金　九万一千円
○予備費　二二三万六千円

平成三年一月一六日県の認可を得て江尾診療所を江府町国民健康保険江尾診療所として再開し、二年目を迎え診療を行ってまいっております。概ね収支健全財政で運営いたしております。

診療時間は午前九時から一二時、午後一時から五時までとして、昨年往診用の自動車も導入いたしましたが、これが車庫の修繕及び、処置室・事務室への冷暖房設備等整備し、地域医療の充実を図ってまいりたいと存じます。

これが対策として、一般会計繰入金二〇〇万円を計上いたしております。

今後直営診療所と連携を保つ施設、保健センター（健康管理センター）の建設についても前向きに検討いたします。

以上、国民健康保険特別会計予算につきましては、国保運営審議会の議を経て提案するものであります。

農業集落排水事業 3億3,830万5千円

下水道は、近代的町づくりにおいて、公共用水の水質保全、住民の快適な生活環境を維持する上で重要な施設であります。生活様式が多様化する中で、合成洗剤が多く含まれた生活雑排水が未処理のまま直接河川に放流されており、このような現状から河川の水質に与える影響は非常に大きいものがあります。

特に農業を基幹産業とする本町では、生活環境及び集落環境を維持、保全する上からも処理施設の整備は重要課題であります。

先に行なった全町意識調査の結果からみても、八〇・六パーセントの人が早急な整備実施加入の強い希望があり、従って今後平成二五年度を目標に町全域を一七地区に分け、完全整備に向け地区の実情を考慮し住民の理解を得ながら財政的負担、住民負担等を勘案しながら農業集落排水事業を中心にし、積極的に下水道の整備を推進いたしたいと思います。

平成三年度から実施の川筋地区は、以前から武庫を中心に多方面に亘り自治活動に共通性を持ち、その生活様式も大部分が第二種兼業農家で、地縁的にも意識的にも連帯感が強い地区であり「行政座談会」等においてトイレの水洗化及び雑排水の処理をしたいとの強い要望がありました。町で現状を調査した結果、地区内水路へ生活雑排水が流入し、稲作の生育障害、排水の滞留による蚊、ハエ、悪臭等が発生しているのが認められたため、事業目的に合致している農業集落排水事業の平成二年度計画を樹立、平成六年度完成に向け実施し生活環境の整備改善を図り、明るく住み良い農村社会の形成を目指すものであります。

なお、明倫小学校はもちろん、江府中学校も整備計画に取り入れたく存じております。

幹線管路工（下安井・洲河崎・武庫）　三、〇〇〇㍍

笠良原市民農園
800万円

平成五年四月の開園準備のため職員の配置、農業技術研修、食品衛生研修、旅館業等の専門研修を実施します。

また、健全経営を目指すため全区画の契約を目標に宣伝活動を実施し、初期の目的であります都市と農村の交流の拠点として町民の皆さんから親しまれ愛される施設になるよう努めてまいります。

奥大山国民宿舎 山荘甘酒茶屋運営事業
事業収益 1億7,453万7千円

事業量予定

宿泊者数　六、〇〇〇人
休憩者数　五、〇〇〇人
食堂利用者数五〇、〇〇〇人

収益的収入及び支出

事業収益
一億七、四五三万七千円
営業収益
一億六、八二一万二千円
営業外収益
六三二万五千円
事業費用
一億七、一六八万一千円
営業費用
一億六、八六四万円
営業外費用
三〇四万一千円
本年度利益予定額
二八五万六千円
設備投資予定額
八〇〇万円
企業債償還金
二四〇万九千円

平成元年度コンサルタントによる甘酒茶屋市場性並びに今後の展開についての経営診断によれば、経営方式も第三セクター方式による株式会社が最適と指摘され、更にチロルの里核づくり構想と併せ本年度中にはその具体的方途も急ぎたく存じておりますが、その全体構想とも連動しながらも、新年度早々に指摘の懸案事項でありました現在の厨房委託方式を解消し、本来の公営企業として町商工観光課の所管としながらも、経験豊かな専任支配人を配し、経営管理、実行責任を明確にし、人的課題でありました従業員勤務シフト、組織体制、人材教育、意識改革、能力開発、接遇サービスの質的向上と周年市場開発にむけ収益性確保の実績も念願いたしております。

ただ、提出しております当初予算は従前方式の内容でありますが甘酒茶屋運営委員会の議を経て、配置する専任支配人の方針も加え、可及的早い時機に補正予算を編成の上提案いたしたく存じますので、ご諒承賜りますようお願い申し上げます。

索道運営事業
事業収益 6,634万1千円

事業量予定

スキーリフト運送人員
三〇〇、〇〇〇人

収益的収入及び支出

事業収益
六、六三四万一千円
営業収益　六、四三一万円
営業外収益
二〇三万一千円
事業費用
五、四〇一万六千円
営業費用
五、〇三三万四千円
営業外費用
一八四万四千円
本年度利益予定額
一、二三二万五千円
設備投資額
一億五、八〇〇万円
企業債償還金
三、八二一万五千円

索道事業も、国民宿舎と同じく考えていますが、平成元年、二年、三年と雪に恵まれ業績もすばらしく唯現行のリフトでは、平均二〇分～三〇分の待ち時間のため、ご迷惑をかけているのが現状です。本年度リフト増設につきましては、検討委員会による結果、第一リフト付け替えが今後スキー場運営から見てもより効果的であるとの答申を検討の上、本年度第一リフトをペアリフトに付け替えし、効率的に待ち時間の緩和とより多くのご利用を考えているところであります。

国民宿舎及び索道事業運営委員会の議を経て提案をいたすものであります。

基本の保有状況
16億7,654万4,848円

一般会計
一、五四七、七三九、二四八円

財政調整基金
一四八、〇八〇、〇〇〇円
減債基金
一〇二、五七三、一六九円
公共施設等建設基金
四一〇、六六三、三六五円
集落経営基金
四七二、八一二、〇〇〇円
ひとづくり事業基金
一〇〇、八〇〇、〇〇〇円
地域づくり事業基金
七四、六〇〇、〇〇〇円
産業育成資金貸付基金
四二三、二五九円
福祉基金
二六、〇〇〇、〇〇〇円
運動公園管理運営基金
五〇、〇〇〇、〇〇〇円
土地開発基金
三三、六八九、八四〇円
特別導入事業基金

五、四〇八、二一五円
公有林野等整備基金
一二二、六八九、四〇〇円

特別会計
一四八、八〇五、六〇〇円

国民健康保険事業基金
九〇、五九二、〇〇〇円
米沢財産区基金
三五、二一三、六〇〇円
神奈川財産区基金
二三、〇〇〇、〇〇〇円

以上の基金につきましては、その内容に応じて近年自治省の注目するところとなり、これが対応が急がれると存じておりますが、将来共、公益的運用を通じまして町行政の振興と町民福祉向上に資したく存じております。

以上、平成四年度予算案並びに条例案、特別会計予算案の提出にあたり、その大要を申し上げました。

更に詳細につきましては、助役、教育長、主管課長、室長より説明申し上げますのでよろしくご審議、ご承認を賜りますようお願い致しまして説明を終ります。

妊娠から出産・子育てまで

夫のためのマタニティ情報

マザーリング研究所代表　たけながかずこ

「里帰り出産するつもりなのですが、実家の母が仕事をしているので、あまりゆっくりもしていられないのです。それに、産前に帰っても昼間一人っきりになるのは変わらないから、予定日ぎりぎりまでここにいたいのです。予定日になってから、帰るのでは、いけないかしら？　だって、初産は予定日より延びるってよくいうでしょ」

「姑は、産後の母乳の出方が順調になる三か月ぐらいまでは、遠慮しないでゆっくりしていけといいます。そうでないと、出る乳も出なくなるよと言ってくれるんですが、私は産後はなるべく早く夫のもとに帰りたいんです」

これらは、私が里帰り出産について、妊娠している女性から受けた電話相談の一部です。ふつう里帰り出産の時期は、妊娠八か月ごろから産後三か月ごろまでですが、電話相談のように、里帰り出産のあり方が、大きく変わりつつあります。

帰省は妊娠九か月までに

もともと里帰り出産は、妊娠中にこれといった支障もなく経過している女性が対象ですから、予定日ぎりぎりでも問題ないかもしれません。しかし、なかには、新幹線の車内や駅構内で、子どもが産まれてしまった話なども聞きますので、予定日近くになって帰るのは避けたほうがいいでしょう。

里帰りは、遅くとも妊娠九か月までに済ませ、帰省先でお世話になる医師の診察を受け、分娩室の見学もしてから出産に臨みたいものです。そして、産後の一か月検診は、必ず出産した医師のところに行って、母子の健康状態をチェックしてください。

里帰り出産のポイント

〝育児戦争〟の覚悟が必要

母乳で育てる場合は、産後一か月から三か月ころまで、実家にお世話になるほうが楽です。でも、早く夫のもとに帰りたいのなら、一か月検診で、医師から「問題なし」といわれてからにしましょう。ただし、この場合、夫にも授乳という〝育児戦争〟にできるだけ協力するという覚悟をしてもらわなければなりません。協力できないのなら、育児を支援してくれる友人や、プロの手配をするなどの対策をたてる必要があるでしょう。

くれぐれも、仕事や出張を理由に、妻と生後一～二か月未満の子どもを、ワンセットで部屋に閉じ込める結果になることだけは、避けなければなりません。

「夢いっぱい 緑いっぱい あしたの大地」

わだい

～ 下蚊屋で 鳥取県植樹祭 ～

四月二十三日、「夢いっぱい 緑いっぱい あしたの大地」をテーマに、平成四年度鳥取県植樹祭が本町の下蚊屋で開催されました。

これは、鳥取県と鳥取県緑化推進委員会が主催したもので、西尾県知事など関係者八百人が参加して行われました。

式典では、今回の植樹祭テーマ特選作品応募者の江尾小学校三年生関内裕子さん（久連）が県知事から表彰を受けました。

また、緑化功労者や緑化コンクール入賞校の表彰が行われ、本町からは助沢の井上一誠さんが緑化功労者として県知事から表彰を受けました。

そして、米沢小学校児童代表の筒井範明くんと大岩万恵さんが「ちかいのことば」を読みあげ、最後に参加者全員で記念植樹を行い、県民総参加の緑化運動にむけて誓いを新たにしました。

▲記念植樹をする福田町長

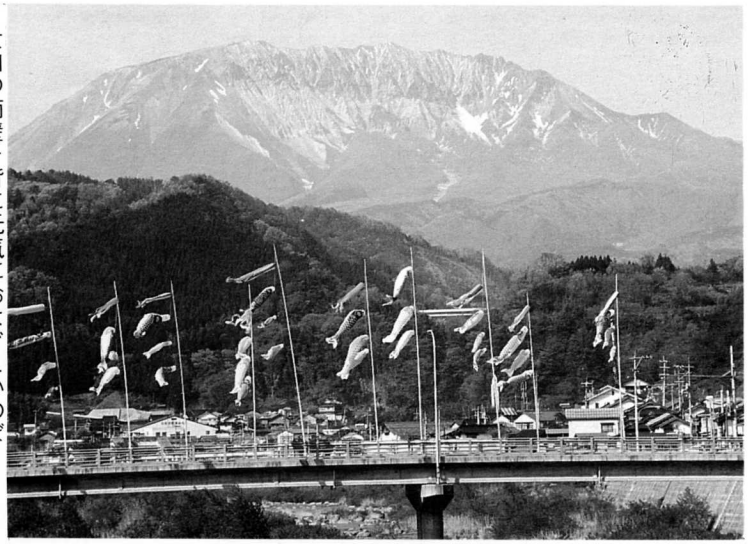
〈子供の成長と日野川の美化を願い〉

日野川を泳ぐ こいのぼり一五〇匹

今年も、日野川にこいのぼりが元気に泳ぎました。

これは、子供の健やかな成長と日野川の美化を願って、「愛漁会」（遠藤量之会長）の皆さんが毎年ゴールデンウィークに行っているものです。

今年は四月二十六日から五月六日まで、夜振橋と久連橋に一五〇匹のこいのぼりが揚げられ、ゴールデンウィークの期間中国道一八一号線を行き交う行楽客の目を楽しませました。



▶大山の南壁を背に元気におよぐこいのぼり

おめでとうございます

江府町明るい選挙推進協議会が優良団体として全国表彰

三月二十四日、東京の麹町会館において、江府町明るい選挙推進協議会（川上正会長、委員一二〇名）が平成三年度明るい選挙推進運動優良団体表彰を受賞しました。

これは、財団法人明るい選挙推進協会が毎年、「永年にわたり明るい選挙推進事業を積極的に推進し、特に成果をあげ、他の模範となる団体」を表彰しているもので、今年も全国から十六団体が表彰を受けました。

江府町明るい選挙推進協議会は、昭和三十七年に「江府町明るく正しい選挙推進協議会」として発足、昭和四十九年に名称を改め現在に至っている。その間、明るい選挙の実現にむけて常時啓発を行うとともに、選挙時にはチラシや広報車により投票の総参加を呼びかけ、投票率の向上を図るなど、その地道な活動が評価され、今回の表彰に至ったものです。

川上会長から喜びのメッセージが届いていますのでご紹介します。

「このたび、計らずも全国表彰の栄に浴しこの喜びを皆様と共に分かち合いたいと存じます。これも偏えに町当局、各種団体の皆様のご協力の賜と深く感謝申し上げますと共に、今後とも格別のご協力を賜りますよう、お願い申し上げる次第であります。

戦後、目に余る腐敗選挙の様相の中で芽生えてきた全国的な公明選挙推進運動の流れの中で、昭和三十七年四月一日、江府町明るい選挙推進協議会と名称を改めて丁度三十年。この期に全国表彰を受賞し得たことに感無量の思いであります。

なお、副賞としてビデオデッキとテープレコーダーを頂きましたので、運動推進のためご利用頂きたいと存じます。

以上御礼と併せご報告申し上げます。」

お世話になります 平成四年度区長さん

四月一七日、開発センターにおいて平成四年度区長会が開催され、新区長のみなさんに福田町長から委嘱状が手渡されました。

部落と役場とのパイプ役として、本年度お世話いただく区長さんは次のとおりです。

（敬称略）

▼本町一丁目　梅林　靖
▼本町二丁目　木村一能
▼本町三丁目　遠藤康三
▼本町四丁目　井上弘樹
▼本町五丁目　仲嶋真道
▼新町一丁目　岡田美男
▼新町二丁目　野田茂
▼大満　徳岡正人
▼小江　眞田良一
▼久連生田正
▼佐川木谷收
▼柿原奥田延壽
▼宮市河上宗晴
▼宮原渡部勇
▼助沢加藤義弘
▼下蚊屋宇田川助二
▼笠良原土橋洋二
▼御机林和敏
▼栗尾筒井章年
▼美用下垣研一
▼小原川上明
▼杉谷末次勝
▼貝田谷田哲志
▼下安井加藤敦啓
▼洲河崎浦部鎮男
▼荒田阿部親雄
▼半の上橋谷俊二
▼宮の前船越照明
▼武庫加藤健二
▼新道大田明弘
▼一旦井上弘基
▼池の内南波英幸
▼尾の上原宮本孝指
▼日の詰中尾陽吉
▼深山口下原繁美
▼吉原清水久
▼西成妹尾衛
▼袋原千藤秀治
▼大河原藤原廣秋

▲区長会

【町職員の異動】

町では、五月一日付で次のとおり人事異動を発令いたしました。カッコ内は、旧任です。

【課長級】

▼総務課長（総務課長兼広報係長）　森　正幸
▼税務課長（税務課長兼税務係長）　大塚和子
▼農林課長兼山村開発センター所長兼高齢者創作館長兼自然休養村管理センター所長（農林課長兼山村開発センター所長兼高齢者創作館長兼自然休養村管理センター所長兼農業委員会事務局長）　河上英明

【課長補佐級】

▼農林課長補佐（構造改善課長補佐兼構造改善係）　松原良枝
▼税務課長補佐兼評価係長（税務課評価係長）　篠田勇夫
▼農林課長補佐兼農林係長（民生課長補佐兼町民係長）　川端孝志
▼農業委員会事務局長心得（企画開発課長補佐兼企画開発係長）　大岩勝実
▼構造改善課長補佐兼土地改良係長（総務課財政係長兼管財係長）　宮本正啓

【係長級】

▼企画開発課企画係長（企画開発課企画開発係主任）　山本節美

江府町 奥大山チロルの里

奥大山チロルの里だより
第2次江府町総合計画策定について③

前回まで、第二次江府町総合計画の概要について紹介してまいりました。今回は、『活力と希望に満ちた魅力ある江府町』の建設にむけた五つの基本方針（町報こうふ二月号参照）について、一つ一つ具体的に紹介します。

①個性ある町づくりをめざして

☆行政の運営

複雑化する諸問題に伴った事務量の増加、又、将来的に週休二日制への移行を考え、各事業分野の見直し、民間委託の拡大、職員資質の向上を図り、コンパクトな行政を構築していく。

☆関連機関との調整

「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」「奥大山チロルの里構想」のほか、様々な計画推進のために、国、県、近隣市町村や大学等の研究機関との調整を図りながら地域活性化を進めていく。

☆コミュニティ活動の推進

従来の集落単位の年中行事からグループ単位によるレクリエーション、文化活動への変化にも対応するため、施設整備を推進する。

②健康で生きがいのある町づくりをめざして

☆町民の健康増進

医療関係施設の整備不足がいわれるなか、町営診療所と関連の保健センター（健康管理センター）の建設計画など、官民一体となった総合医療施設の整備とともに、「病気を治す」から「病気にならない努力をする」という町民意識の高揚を図っていく。

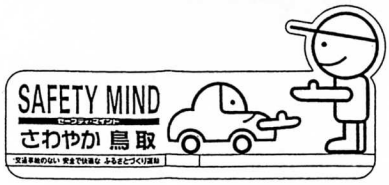
☆地域ぐるみの福祉活動

人口の高齢化、扶養意識の減退の進行に対応するため、平成四年度には老人福祉センターの建設、また今後、社会福祉協議会が中心となって進めるシルバーセンターの設置や、ホームヘルパーの増員による在宅ケアサービスとボランティアシステムの確立を推進していく。

また、今後の長寿社会を担う青少年の健全育成をはじめ、就業機会の確保、生涯学習と生きがい対策の充実などの施策を積極的に進めていく。

以上、五つの基本方針の内二つについて紹介しましたが、残り三つの基本方針については、次号で紹介します。

「江尾地区」が交通事故減少モデル地区に



本町の「江尾地区」が「平成四年度交通事故減少モデル地区」に鳥取県交通対策協議会から指定を受けました。

これは、平成三年度中に交通事故が多発した市町村を対象に県と市町村、住民が一体となり諸対策を推進することにより、交通事故の減少を図ろうとするものです。

本町では、昨年死者六名という過去に例のない最悪の結果に終わりました。また、今年も四月初めには米子自動車道において開通以来始めての死亡事故が発生するなど、極めて厳しい現状であります。

改めて住民一人ひとりが交通安全意識を高め、交通事故を起こさないように、また、会わないように気をつけましょう。

※歩行者の皆さんへ

歩行者だからと言って油断は禁物。歩行者交通安全5則を必ず守りましょう。

高齢歩行者等交通安全5則

1 信号を　よく確めて　渡りましょう
2 横断は　左右をよく見て　まっすぐ渡りましょう
3 車の　直前直後の横断は　やめましょう
4 夜間外出するときは　明るい服装で　反射材を身につけましょう
5 自転車に乗るときは　交差点や　曲り角では必ず止まりましょう

※運転者の皆さんへ

シートベルト、ヘルメットを正しく着用し、安全運転5則を必ず守りましょう。

安全運転5則

1 安全速度を必ず守る
2 カーブの手前でスピードを落とす
3 交差点では必ず安全を確かめる
4 一時停止で横断歩行者の安全を守る
5 飲酒運転は絶対しない

※飲酒運転撲滅へ

家庭、職場で話し合い飲酒運転をなくしましょう。

飲酒運転四（し）ない運動

1 酒を飲んだら　運転しない
2 運転するなら　酒を飲まない
3 運転する人に　酒をすすめない
4 飲酒運転を　許さない

▼教育委員会社会体育係長（農林課農林係長）　見山　收
▼日野町江府町日南町衛生施設組合係長（建設課水道係長）　太田　厚
▼建設課水道係長（日野町江府町日南町衛生施設組合主任）　阿部朝親
▼総務課広報係長兼同和対策室兼議会事務局（総務課行政係主任兼議会事務局兼同和対策室）　井上あけみ
▼民生課福祉係長兼衛生係長（民生課衛生係長）　西田　哲
▼企画開発課開発係長（農業委員会農地主事）　大田敏朗
▼税務課税務係長（民生課町民係主任）　白石和恵
▼総務課財政係長兼管財係長（税務課税務係主任）　岡田雄成
▼教育委員会庶務係長兼学事係（教育委員会庶務係兼学事係）　中川久美子

【主任級】

▼民生課町民係主任（農林課農林係主任兼商工観光課商工観光係）　加藤　泉
▼総務課広報係主任（教育委員会社会教育係主任）　本高善久
▼構造改善課土地改良係主任（教育委員会運動公園係主任）　中田　実

（次ページへつづく）

お知らせ

参加者募集
研修派遣支援制度

江府町では、平成四年度人づくり事業として、町民の方を対象に研修派遣を行います。

希望の方は、役場企画開発課へお申し込みください。

◎研修内容及び日程
別表のとおり。

◎支援制度
研修にかかる旅費、日当、宿泊費（町の旅費基準を適用）の四分の三を補助。

◎定員
一研修につき二名。

◎申込期限
研修予定月の一ケ月前まで。

◎研修についての照会、申し込みは、役場企画開発課へ。

平成四年度研修スケジュール

分野	テーマ	日程	実施月
農林畜産業振興	農業を軸とした地域づくりを学ぶ	3日間	8月
	観光と農林畜産業の結合を考える	3日間	11月
商業振興	商店街のサバイバル戦略を探る	3日間	10月
工業振興	地場産業の育成方策を考える	3日間	1月
特産品開発	特産品開発のノウハウを学ぶ	5日間	7月
観光・リゾート	地域資源を生かした農山村リゾートを考える	3日間	12月
	観光におけるサービスのあり方を学ぶ ーその1ー	3日間	6月
	観光におけるサービスのあり方を学ぶ ーその2ー		9月
定住対策	若者や女性が暮らしやすいまちづくりを考える	3日間	6月
	高齢者が暮らしやすいまちづくりを考える	3日間	7月
地域文化	イベントによる地域活性化方策を学ぶ	3日間	2月

チロルの里からおいしい水
「奥大山の水」を販売開始

江府町の自然が生み出したおいしい水・・・これを商品化したいと昨年からいろいろ試作を重ね取り組まれてきましたが、いよいよ今年度から『奥大山の水』として販売されることになりました。

コーヒー、お茶、水割等に適したおいしい水と大好評です。

江府町の特産品として、お土産、ご贈答用など多数ご利用ください。

◎奥大山の水・・一本二五〇円
贈答用等には、一箱十二本入り（三千円・送料別）もあります。

◎取扱：奥大山チロルの里特産品振興協会（江府町役場企画開発課内☎〇八五九・七五・二二一一へお申し込みください。）

▼農林課農林係主任兼商工観光課商工観光係（構造改善課構造改善係主任）
瀬島明正

▼教育委員会社会教育係主任（総務課広報係主任）影山久志

▼企画開発課企画係主任（企画開発課企画開発係主任）原義博

▼民生課衛生係主任（建設課管理係主任）
池田健一

【主事級】

▼建設課管理係主事（農林課農林係主事）
塚原守

▼総務課管財係主事兼庶務係兼財政係（総務課庶務係兼財政係兼管財係主事）
西岡浩治

▼農林課農林係主事（農林課振興係主事）
長尾英俊

【条件付き採用】

▼農林課農林係
竹茂良平

▼企画開発課開発係
末次義晃

▼構造改善課土地改良係
谷口博志

人の動き

3月届け

□お誕生おめでとう

小江尾　長尾明日香（ながおあすか）　慎午　長女
池の内　藤原（ふじはら）　裕二（ゆうじ）　孝志　二男
本　一　松崎（まつざき）　由佳（ゆか）　孝志　二女

♡ご結婚を祝します

モライス・ルイスカルロス）ブラジルから
加藤　俊子　）杉谷
山本　哲也）下蚊屋
森田由香里）貝田から
長尾　俊弘）小江尾
森田　泰代）高知県土佐市から
鈴木　啓文）大阪府吹田市
山口　和恵）大万から
森田　真一）貝田
末次はるみ）宮市から
須山　昌幸）島根県大原郡
永井　伸子）小江尾から

■ごめい福を祈ります

洲河崎　三好　クマ　89歳　拳三　宅
本　四　米田　清　80歳　みち子　宅
本　三　角田　章　55歳　きぬ江　宅
大河原　清水　千尋　71歳　干城　宅
吉　原　中祖そ免乃　89歳　規矩夫　宅
新　一　門田　直理　75歳　久子　宅
大河原　井上　正生　46歳　利子　宅
新　一　神庭ためよ　91歳　ひふみ　宅
下蚊屋　筒井理三郎　93歳　厚之　宅
本　四　芦立ハナコ　87歳　喜明　宅

ありがとうございました

3月中寄託分

□香典返しとして

洲河崎　三好　拳三　様
（母クマ様ご逝去）
宮の前　森　次郎　様
（妻初子様ご逝去）
本　三　角田きぬ江　様
（長男章様ご逝去）
本　一　森　正幸　様
（母並子様ご逝去）
本　四　米田　昌史　様
（父清様ご逝去）
大河原　清水　干城　様
（父千尋様ご逝去）
吉　原　中祖規矩夫　様
（母そ免乃様ご逝去）
大河原　井上　利子　様
（夫正生様ご逝去）
下蚊屋　筒井　厚之　様
（祖父理三郎様ご逝去）

□内祝として

貝　田　藤岡美百合　様
（ご本人様退院）
本　五　川上　和人　様
（ご本人様退院）
本　一　清水てつこ　様
（ご本人様退院）
下蚊屋　梅田　菊治　様
（ご本人様退院）
美　用　河合　博男　様
（ご本人様退院）
久　連　本庄佐夜子　様
（ご本人様退院）
本　二　道下　康裕　様
（ご本人様退院）
本　四　芦立ハナコ　様
（ご本人様退院）
本　五　川端　稔　様
（ご本人様退院）
池の内　加藤　要　様
（二男康様退院）
本　二　中田　実　様
（ご本人様退院）
大河原　安田　梅　様
（ご本人様退院）
貝　田　遠藤みどり　様
（ご本人様退院）
本　一　吉岡　一枝　様
（ご本人様退院）
下安井　金田　藤枝　様
（ご本人様退院）
本　二　徳岡　貴史　様
（ご本人様退院）

ご注意下さい

電池は正しく使いましょう

《電池の危害》

電池は、子供にも簡単に取り扱えるということから安易に考えがちで、その使用法を誤るとても危険で、各地の消費者センターや病院に、電池による危害の報告が数多く寄せられています。これらの事故は破裂・漏液・誤飲によるもので、いずれの場合も、人体に直接危害危険が及ぶものばかりです。

では、なぜ事故が発生するのでしょうか？電池の破裂や漏液は、内部にガスが発生し圧力が高くなるために起こります。特に筒型の単一～単三相当のものは、内部の化学物質の量が多く、中でもアルカリ・マンガン電池はその構造上から、金属製の筒の中に密封されているため、破裂事故が集中して起きています。メーカーでは、破裂を防ぐための「ガス抜き弁」を昭和五八年頃より順次取り付けるようになりましたが、取り扱い方を誤るとその弁を通じて漏液しますので注意が必要です。

《電池の取り扱い上の注意点》

① プラス・マイナスは指定どおり入れること。
② 古い電池を新しい電池と混ぜて使わないこと。
③ 一つの機器には違う種類の電池を入れないこと。
④ 使用済の電池はすぐに取りはずすこと。
⑤ 充電しないこと、ショートさせないこと、火の中へ放り込まないこと。
⑥ ボタン型電池は幼児の手の届かないところに！

江府町社会福祉協議会
善意銀行受払報告

二月末累計額	二、九五七、六二五円
三月中寄託額	四三〇、〇〇〇円
合　計	三、三八七、六二五円
基金積立繰出	三、三六九、〇〇〇円
総累計額	五九、四五九、〇〇〇円

今年、町内の4小学校に入学したピカピカの1年生54人を紹介します。

（掲載 順不同）

米沢小学校 5人

加藤　良介くん

三好ゆかりさん

明倫小学校 17人

田中　耕平くん

宇田川恵理さん

藤谷　敬太くん

久木　萌冬さん

江尾小学校 28人

白石　祐子さん

加藤　康くん

小椋　佑子さん

大谷　和己くん

船越　貴紀くん

三輪　綾子さん

関内　和也くん

藤原　直美さん

伊達　和利くん

田枝　幸恵さん

宇田川信博くん

影山絵里衣さん

田口　泰洋くん

藤原　樹雄くん

中田　尚くん

梅林なつみさん

梅林　徹くん

影山　翔一くん

藤田　憲幸くん

藤　由佳里さん

川上　友和くん

遠藤　貴之くん

加持谷敬子さん

三好　貴子さん

入学 おめでとう